

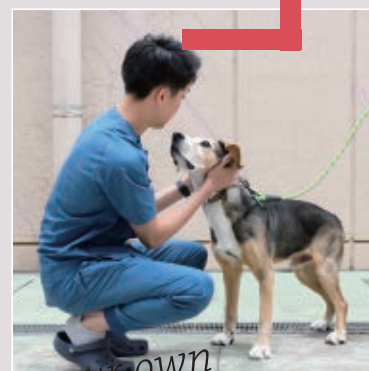
DEPARTMENT OF VETERINARY MEDICINE,

COLLEGE OF BIORESOURCE SCIENCES



獣医学科

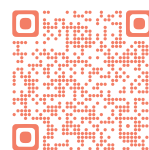
日本大学 生物資源科学部



*Develop your own
future by yourself!*

パンフレット PDF

Webサイト



Key word...

で見る 獣医学科

動物医療を通して動物の健康維持・増進を図るとともに、ヒトの健康と福祉に貢献する獣医師を養成することが獣医学科の目的です。その目的を達成するため、緑あふれるキャンパスには、充実した教育・研究環境が整備されております。そして社会のニーズに応えられる獣医師の養成はもちろん、国内外から注目を集めるさまざまな研究が、今この瞬間にも進められています。

国内有数の 教育・研究環境



日本大学動物病院 (ANMEC) や動物医科学研究センターといった教育・研究施設には国内有数の最先端機器が充実。実習や演習などを通して利用・体験できます。

多彩な動物の研究が繰り広げられる 動物医科学研究センター



本センターは魚類から哺乳類の基本原理を探究しています。生命の根源的理解を深めることで、病気の予防法や治療法を開発し、持続可能な社会の実現を目指しています。

全国を網羅する 同窓生ネットワーク (角笛会)

獣医学科の歴史は、1907年の東京獣医学校設立に始まり、これまで多くの獣医師を輩出しています。全国の角笛会支部が卒業後もあなたをサポートします。



獣医学専門医に学ぶ 海外研修



欧米の獣医学専門医からマンツーマンで検査や治療の技術指導を受ける海外研修は、将来獣医師として、海外で活躍したいというあなたの夢を叶えるステップになります。

イルカの研究



イルカには未知なことがたくさんあります。彼らが海で生きるための生理機能や解剖学的研究を行い、なぜ環境に適応できたのかを解明しています。

きめ細かい 学習指導体制



学年担任制、リメディアル教育、英語プレイスメントテスト、キャリアイングリッシュ、学生相談室、学習支援センターなど、個々の学生に合わせた教育指導体制が整っています。

がんの放射線治療、獣医脳外科など 先端獣医療



犬や猫も、長生きするほどがんの発生率が高まります。体の深部の腫瘍を狙い撃ちする放射線療法は、外科手術と並んで、なくてはならない治療です。

活発な 獣医系学術サークル

低学年から所属可能な獣医系学術サークルでは、獣医学の知識を学ぶだけでなく、同級生や先輩・後輩とより親しくなる機会が得られます。

日本大学動物病院



日本大学動物病院 (Animal Medical Center: ANMEC) には、ヒトの総合病院に匹敵する最先端の医療機器が揃っています。この大学付属の教育病院で、学生は臨床実習を行い、さまざまな症例に関する基本的な診断法や治療法などを学びます。ANMECはさらに、国内有数の二次診療施設でもあり、専門的な診断技術と実践的な治療法を学ぶため、多くの研修医が研鑽を積んでいます。希少な臨床例を集積し、再検討しつつ、新たな知見を得ることで、動物医療の進歩に貢献しています。

AAHA認定



2023年8月に米国動物病院協会 (American Animal Hospital Association: AAHA) の認定 (Accreditation) を受けました。これは、北米以外で初めての大学教育動物病院の認定であり、日本大学動物病院が国際基準の伴侶動物診療施設であることが第三者評価として正式に認められました。

自然豊かな 湘南キャンパス

広大なキャンパスは緑にあふれ、勉学にうってつけの落ち着いた雰囲気。しかも駅まで数分の近さです。息抜きには、江ノ島・鎌倉・横浜がすぐそこです。

研究室紹介

獣医学科は以下の研究室で構成されており、4年生から入室します。そして教員の指導のもと、研究室活動を通して、専門知識や実践的な技術を修得していきます。

- **獣医解剖学研究室**
さまざまな動物の体の構造や機能を研究しています。
- **獣医生理学研究室**
動物の器官や組織、細胞の機能について研究しています。
- **獣医生化学研究室／分子生物学的研究室**
細胞機能の分子レベルでの解明を目指します。
- **獣医病理学研究室**
動物の病気の原因を、病理解剖などで明らかにします。
- **獣医微生物学研究室**
動物に感染するウイルスが病気を起こす仕組みを研究しています。
- **獣医薬理学研究室**
薬、特に抗がん薬を有効かつ安全に使用方法を研究しています。
- **医動物学研究室**
寄生虫の正確な診断、ヒトや動物に共通する寄生虫病が主要テーマです。
- **獣医内科学研究室**
動物の病気の原因を調べ、診断・治療に役立つ研究をしています。
- **獣医外科学研究室**
明日の外科臨床に役立つ高度医療を研究しています。
- **獣医臨床繁殖学研究室**
社会ニーズに合致した繁殖技術の開発をめざします。

- **獣医産業動物臨床学研究室**
家畜の健康と食の安全を守る産業動物臨床獣医師の育成をめざします。
- **獣医放射線学研究室**
画像を利用した診断と腫瘍の放射線治療を行います。
- **獣医麻酔・呼吸器学研究室**
ヒトと共に暮らす動物の麻酔科学と呼吸器学の教育・研究をしています。
- **獣医神経病学研究室**
動物の神経疾患に対する診断治療法を、様々な角度から研究しています。
- **獣医伝染病学研究室**
家畜やペットで問題となっているウイルス性の伝染病を研究しています。
- **獣医衛生学研究室**
免疫機構の仕組みを解明し、動物の疾病予防や健康増進に貢献します。
- **獣医公衆衛生学研究室／獣医食品衛生学研究室**
ヒトも動物も健康に安心して生活できるよう研究を展開しています。
- **魚病／比較免疫学研究室**
犬や猫～魚類まで、様々な動物の免疫のしくみを調べています。
- **実験動物学研究室**
モデル動物を用いて病気のメカニズムや治療法を研究しています。
- **獣医毒性学研究室**
代謝性疾患に対する創薬や、生薬の効果と毒性について研究しています。

Student's Voice

知識を吸収し経験を積む アクティブな6年間

獣医師に求められるのは広範囲な領域にわたる専門知識と実践力です。

獣医学科では、それらを段階的に修得できるように

綿密なカリキュラムを編成。多彩な人材や研究施設を活用して、

最先端の学習環境と体制を整えることで、6年間の学生生活をサポートしています。

獣医師をめざして日々奮闘する先輩方は、こうした環境を最大限に活かして、

忙しいながらも充実したキャンパスライフを送っています。



健康を保つために生体内で起きていること、 その仕組みのおもしろさに気づきました

Y.A さん 2年生 出身高校所在地：栃木県

1年次の必修科目である「獣医生化学A」は、動物が生きていく上で、生体内でどんなことが行われているのかを学びます。タンパク質や脂質、DNAの構造など生体内で重要な役割をこなう物質の構造や働き、生体内で起きている化学変化などについて見ていくのですが、想像以上に複雑な構造を持ち、化学変化を行っていることに驚きました。食べ物を食べたら、タンパク質は酵素によってアミノ酸に分解されてはじめて吸収されるように、健康を保つためにはとても細かく、多くのことが生体内で正常に行われなければなりません。病気は表に現れる症状だけではなく、目では見えない小さなレベルから向き合わなければならないのだと感じました。

PickUP科目

獣医生化学A

獣医生化学では、生命維持の仕組みを理解するため、細胞の機能に関わる化学的機序を分子レベルで学びます。遺伝情報の伝達やエピジェネティクス、組換えDNA技術について、糖質やタンパク質の構造や代謝、さらには臓器相関や代謝調節機構について理解します。



PickUP科目

獣医薬理学B

獣医薬理学では病気の治療や予防に使う薬を理解するために、薬と生体の関わりについて分子・細胞から個体レベルでの考え方を学びます。薬のはたらきとそのメカニズム、有害な作用、薬の吸収から排泄までの機構を理解することによって、医薬品を適正に動物に使用するための基礎知識を修得します。

動物医療と切り離せない薬を学ぶことで 他の獣医学の知識も生きてきます

N.Kさん 3年生 出身高校所在地：鹿児島県

動物の病気を治療するにあたってとても重要なのが、適切な薬を適切な投与方法で適切な量を使用することです。「獣医薬理学B」では、その薬がなぜ効果があるのか、薬の作用する場所はどこなのか、様々な薬の作用と副作用、そして使用する上での禁忌などを詳しく学びます。また、他の獣医学の知識とのつながりを強く実感できる科目でもあります。例えば、薬によって使用してはいけない動物種が存在します。その理由を考える時に、獣医生理学や獣医解剖学で得てきた生理機能、動物間の臓器や酵素の差などの知識を振り返るとずっと理解できるのです。将来は小動物臨床の現場で、獣医薬理学で鍛えた判断力を活かせる獣医師になりたいと思います。



病変のある臓器を肉眼で観察し、 触れることができる印象深い実習でした

M.H さん 4年生 出身高校所在地：神奈川県

2年次の解剖学実習で正常な生体の構造を理解し、3年次の「獣医病理学実習A」で病変のある臓器に触れながら、原因となる疾病を考察していきます。臨床の現場では、病変した臓器はエコーやX線などの機械を通して確認するため、この実習で肉眼で実際に見ておくことは貴重な体験となりました。また、的をえた正確な観察力、専門用語を使った記載方法、最も可能性の高い疾患の診断方法など、より実践に近いスキルを身につけることができます。実習の中で、特に心臓は疾病により全く異なる病変を形成することが分かり、循環器分野に興味を持ち始めました。将来は循環器を専門とし、難しい病気にも対処できる獣医師になるべく励んでいます。



PickUP科目

獣医病理学実習A

動物の体に生じる様々な病変について、肉眼的異常の把握、記録、および診断の下し方について学習します。臨床医からの依頼による病理解剖についても見学をする機会があり、実践的な病理診断を経験します。さらには、近年社会的ニーズの増大している法獣医病理学についても体験できます。



手術に必要な縫合や麻酔管理などのスキルを 体験させてもらう貴重な授業となりました

M.Tさん 5年生 出身高校所在地：東京都

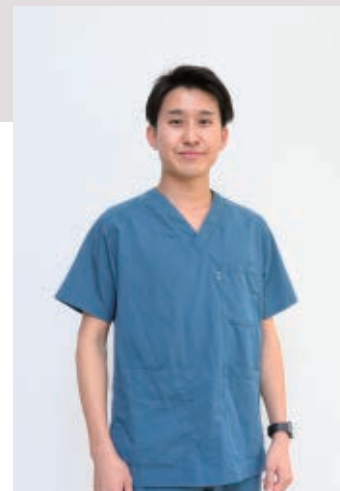
PickUP科目

小動物外科学実習A

外科手術学に必要な鎮静・麻酔法、無菌手術法、各種診断法を段階的に体得させうえに、軟部組織外科の手技を勉強し、手術学の基本的手技を修得することを目的としています。



まず手術器具の名称、皮膚縫合や糸の結紮(けっさつ)の仕方といった、手術に必要な基本的なスキルを練習して身につけていきます。そして、臨床現場で比較的实施されるような軟部外科手術の手技を学んでいきます。手術では出血をさせないために正確に血管を結紮処理することが求められますが、この実習を通じてその重要性を学ぶことができました。また、手術中の麻酔管理や呼吸管理を体験することは卒業後も役立つものであると感じました。卒業後は小動物臨床に進み、循環器や腫瘍の治療に力を入れたいです。この実習で学んだ基本的な外科手技を正確に身につけ、将来はさらにレベルの高い手術を実践できるようになりたいと考えています。



小動物から牛や馬などの産業動物まで、 様々な臨床現場での実体験ができました

R.K さん 6年生 出身高校所在地：山梨県

「総合参加型臨床実習」では、大学内にある動物病院のほとんどの診療科を回ります。将来、小動物臨床の現場で様々な症例と向き合いたい私にとって、一連の診療の流れを実際に見て学ぶことができたのはとても有意義でした。外科では実際の症例の手術に立ち会います。手術チームの一員として参加することで、間近で手術を体験することができました。内科では症例のディスカッションに参加したり、飼い主さんがいらっしゃる場に足を運び、やりとりを見学させてもらうことも。これまでの座学でインプットした内容を実際にアウトプットできる授業であり、自身の診断や治療に対する考え方を学生の時点で養うことができるのも大きな魅力です。

PickUP科目

総合参加型臨床実習

参加型臨床実習は、動物病院の内科系、外科系、産業動物系の全専門診療科をローテーションして診療補助を行いながら、またオンデマンドやシミュレータを利用して実際の診療技能と臨床的知識、コミュニケーション力を身につけることを目的とした実習です。



「獣医師への道のり」

基礎的な概論から始めて、年次が上がるごとに専門知識を増やし、実習を重ねることで、獣医師としての心構えを醸成しながら、現場で通用する実践力を養成します。



カリキュラム（専門教育科目）

1 年次

●必修科目
獣医学概論
獣医倫理・動物福祉学
獣医解剖学 A
獣医解剖学 B
獣医生理学 A
獣医生理学 B
獣医生化学 A
獣医生化学 B
動物遺伝育種学

●選択科目
分子生物学

2 年次

●必修科目
獣医組織・発生学
獣医薬理学 A
獣医薬理学 B
動物行動学
実験動物学 A
放射線生物学
獣医病理学 A
獣医病理学 B
獣医免疫学
獣医微生物学 A
獣医微生物学 B
獣医寄生虫病学 A
獣医解剖学実習 A
獣医解剖学実習 B
獣医組織学実習
獣医生理学実習
獣医生化学実習
獣医微生物学実習

●選択科目
生物統計学
動物品種論
牧場実習

3 年次

●必修科目
実験動物学 B
獣医病理学 C
獣医寄生虫病学 B
動物感染症学 A
獣医学 A
魚病学 B
獣医公衆衛生学総論
食品衛生学
毒性学
獣医疫学
獣医内科学総論
獣医臨床病理学
獣医内分泌代謝病学
獣医血液病学
獣医皮膚病学
獣医外科学/手術学総論
獣医臨床繁殖学 A
獣医薬理学実習
実験動物学実習
獣医病理学実習 A
獣医病理学実習 B
獣医寄生虫病学実習
毒性学実習

●選択科目
獣医臨床解剖学

4 年次

●必修科目
動物感染症学 B
動物衛生学
環境衛生学
人獣共通感染症学
獣医臨床繁殖学 B
獣医呼吸循環器病学
獣医消化器病学
獣医臨床行動学
獣医麻酔学
獣医軟部組織外科学
獣医運動器病学
獣医臨床腫瘍学
獣医画像診断学 A
獣医画像診断学 B
産業動物臨床学 A
産業動物臨床学 B
馬臨床学
動物感染症学実習
魚病学実習
動物衛生学実習
獣医公衆衛生学実習
食品衛生学実習
小動物内科学実習 A
小動物外科学実習 A
獣医臨床繁殖学実習

●選択科目
エキゾチックアニマル学
獣医応用免疫学

5 年次

●必修科目
野生動物学
獣医臨床薬理学
獣医腎泌尿器病学
獣医臨床栄養学
獣医神経病学
獣医眼科学
小動物内科学実習 B
小動物外科学実習 B
獣医画像診断学実習
産業動物臨床実習
総合参加型臨床実習
獣医事特別演習
獣医学外演習
専門獣医学演習 A
専門獣医学演習 B

●選択科目
獣医再生医療学
動物園・水族館演習

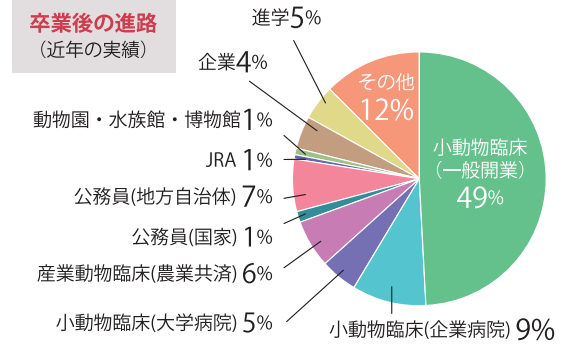


資格について

- 受験資格
獣医師
- 取得できる免許・資格
高等学校教諭 1 種免許（理科）、中学校教諭 1 種免許（理科）、飼料製造管理者、食品衛生責任者
- 任用資格（卒業後、実務につくことによって与えられる資格）
学芸員、食品衛生管理者、食品衛生監視員、薬事監視員、環境衛生監視員、と畜検査員、狂犬病予防員、家庭用品衛生監視員、種畜検査委員

進路について

- 将来の活動分野
伴侶動物、産業動物などの治療を行う臨床獣医師をはじめ、国家公務員（農林水産省や厚生労働省の行政職）、独立行政法人動物衛生研究所や畜産草地研究所の研究員、地方公務員（都道府県・市町村の家畜保健衛生所、食肉衛生検査所、動物愛護センター、農林水産部、公衆衛生部などの獣医師）、農業団体や動物園の獣医師、大学の研究室、製薬・食品関連の研究機関など。なお、1割弱の学生が大学院へ進学します。
- 主な就職先
民間小動物病院、農林水産省、厚生労働省、地方公務員、農業共済組合、家畜改良センター、日本中央競馬会、東京動物園協会、中外製薬、共立製薬、イオンペット、アニコム先進医療研究所、日本大学動物病院、など



動物園 獣医師

動物園獣医師
企業勤務獣医師
山上 達彦さん

2008年度卒業
獣医解剖学研究室出身



動物のすばらしさを伝えることが私の仕事です。

社会において誰もが身近に動物たちとふれあえる場所が動物園や水族館です。動物を通じて、命の大切さや動物の持つ素晴らしさを伝えることが動物園の使命であり、それは私の仕事でもあります。そのためにいかに動物を健康に飼育管理、個体群の維持や繁殖できるかが獣医師としての私の役割です。様々な動物やその疾患と向き合い、その度に学生時代の友人や先輩、恩師にアドバイスをもらいながら乗り越えてきました。これからもより多くの人に動物の魅力を伝えられるよう、日々動物たちと真正面から向き合っていきたいと思っています。

活躍する卒業生

競走馬 獣医師

JRA栗東トレーニング・センター競走馬診療所
獣医職
川島 雅史さん
2016年度卒業
獣医薬理学研究室出身



競走馬の診察・治療の最前線で日々奮闘しています

約2000頭の競走馬がレースを目指し、日々トレーニングを行う栗東トレーニング・センターにおいて、コンディション調整や各種疾病に対する治療などに従事しています。また、競馬開催時には、出走した競走馬を診察するのも仕事です。公正な競馬の開催に携わるため、大きな責任を伴う仕事ですが、「先生に診てもらったから、レースで勝てたよ」と厩舎の方から感謝されることに日々やりがいを感じ、頑張っています。今後も日々研鑽し、厩舎の方からも信頼される獣医師を目指していきます。

公務員技師

神奈川県食肉衛生検査所
技 師
重松 幸典さん
2012年度卒業
獣医公衆衛生学研究室出身



公務員獣医師として、食肉の安全・安心に取り組んでいます

私の勤務する食肉衛生検査所では、安全・安心な食肉を消費者に届けるために、食用とする牛・豚の病気の検査、抗生物質等の残留の検査やと畜場の衛生指導を行っています。現在、私は動物の臓器や細胞を観察することで病気を診断する病理検査を担当しています。現場ではまれに教科書に記載のない病気に遭遇します。これを研修会で報告したり、論文として発表したりするのも仕事の1つで、後に同じ病気に遭遇した獣医師の参考になるよう努めています。このように、公務員獣医師として食肉の安全・安心に貢献できること、さらに獣医学の発展にも貢献できることにやりがいと喜びを感じています。

動物病院 勤務医

イオン動物病院 与野
勤務医
吉岡 努さん
2009年度卒業
獣医放射線学研究室出身



生涯勉強、生涯獣医師

現在、埼玉の企業動物病院に勤務しています。学生時代は、高度獣医療を学びつつ、犬猫や飼い主様と真摯に、時に情熱的に向き合う姿勢を、先生方から教わりました。卒業後に勤務した各病院で、一般内科・外科に加えて、専門的な眼科、呼吸器科診療の研鑽を積みました。これらの経験を糧に、現在の職場では、獣医師、動物看護師をはじめ、病院スタッフ全員で「チーム医療」の充実を目指し、切磋琢磨しています。動物たちの元気な姿や、飼い主様の喜び・感謝が、この仕事で得られる最高の報酬であり、次の困難へ立ち向かうための力の源です。

研究員

ロイヤルカナンジャパン
企業勤務獣医師
北中 卓さん
2005年度卒業
獣医生理学研究室出身



犬と猫の食事を科学的に支える

私は、ペットフード会社の社員として、動物の健康維持や様々な病気からの回復を支える栄養学に関する研究や調査を行っています。一方で、学会発表、講演、栄養学の授業の講師、執筆活動等を通して栄養学の啓発活動も行っております。現在は企業に勤務する傍ら、母校である日本大学の獣医生化学研究室にて研究員として栄養学を始め広く分子生物学的な研究も行っており、最近では猫の関節炎の病態発生機序に関する研究成果を、英科学誌『Scientific Reports』に掲載することができました。今後も、産学二つの立場から、動物の栄養学の発展に貢献していきたいと考えております。

獣医学科の アドミッションポリシー

Admission policy

獣医学科では、動物の健康維持・増進を図るとともに、人の健康と福祉に携わり、地域社会および国際社会に貢献できる獣医師の育成に力を注いでいます。この観点から、本学科は次のような人材を求めています。

- 1 生命に対する強い関心と倫理観を有している。
- 2 日本や国際社会が直面している人・動物・環境(生態系)に関連する諸問題や獣医療に強い関心を持っている。
- 3 獣医学に関する学びを通して自ら課題を見出し、それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。
- 4 日本や国際社会における獣医学の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。
- 5 入学後、実習・演習科目を含む各種開講科目の受講にあたり、多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

日本大学 生物資源科学部

バイオサイエンス学科	動物学科	海洋生物学科	森林学科
環境学科	アグリサイエンス学科	食品開発学科	食品ビジネス学科
国際共生学科	獣医保健看護学科	獣医学科	



入学センター

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL 0466-84-3812
FAX 0466-84-3815
MAIL brs.nyuushi@nihon-u.ac.jp

小田急江ノ島線(各駅停車)「六会日大前」から徒歩3分

- 新宿から小田急江ノ島線下りに乗り「六会日大前」へ
- 渋谷から東急田園都市線に乗り「中央林間」下車
小田急江ノ島線下りに乗り換え、「六会日大前」へ
- 東京からJR東海道本線に乗り「藤沢」下車
小田急江ノ島線上り(各駅停車)に乗り換え、「六会日大前」へ
- 横浜から相鉄いずみ野線に乗り「湘南台」下車
小田急江ノ島線下り(各駅停車)に乗り換え、「六会日大前」へ